

令和8年度津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会議事録

日時：令和8年7月28日（火）

午前10時00分から

場所：市役所5階 第1委員会室

【配付資料】

- 資料1 津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会委員名簿
- 資料2 津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会設置要綱
- 資料3-1 全国と愛知県の人口動向について
- 資料3-2 津島市の人口動向について
- 資料4 第2期津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況
- 資料5 第2期津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の関連事業（令和8年度）
- 資料6 地方創生推進交付金事業評価・検証シート【令和7年度実施分】
- 参考資料 第5次津島市総合計画概要版、魅力マシマシ津島市ガイド等

開会

委員紹介

出席状況の報告

資料確認

委員長挨拶

本日は様々な立場の方に委員として出席いただいている。忌憚のない意見を積極的に発言いただきたい。

本委員会は急速な人口減少に歯止めをかけ、活力ある地域を創生していくため、「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、国の長期ビジョン及び総合戦略を踏まえ、津島市の実情に応じた目標や基本的方向、具体的な施策をまとめた「津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を推進するために設置されたものである。

本日は、「第2期津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」についての進捗状況や、国の「地方創生推進交付金」を活用した事業の成果等を説明していただくので、ご意見を頂戴したい。

それでは「(1) 第2期津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について」を議題とする。戦略ごとに事務局から説明していただき、その後、各委員から意見を頂戴したい。

議題 第2期津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について
事務局より説明（資料3-1、3-2、4、5）
（戦略1 こどもを産み育てやすい環境をつくる）

（委員長）

事務局の説明を受けて、意見・質問等があればお願いしたい。

（委員）

資料3-2の津島市の人口動向について、令和4年度から社会増に転換した要因を教えてください。

また、資料4の「戦略1 こどもを産み育てやすい環境をつくる」については、非常に大切な観点と思われるが、KPIの「放課後子ども教室利用者参加満足度(%)」の2025年の直近数値が、目標値と比較して少し低い状況となっており、その要因について把握しているか伺いたい。

（委員長）

関連して、KPIの「放課後子ども教室利用者参加満足度(%)」については、保護者の方が対象のアンケートなのか、利用しているこどもが対象のアンケートなのか併せて教えてください。

（事務局）

1点目の社会増への転換については、特に就労資格を持つ外国人の転入数が令和4年度から多くなっていることが主な要因であるが、多文化共生ということで、今回は日本人と外国人を合わせてグラフで示させていただいている。

なお、20～30歳代の結婚・子育て・定住期の方については、令和6年度から令和7年度にかけて社会減・転出超過が縮小している状況となっている。昨年度実施した「第5次津島市総合計画中間見直しに関する市民意識調査」においても、20～30歳代の方については、子育て環境に対する肯定的な評価をいただいている。

2点目の利用者参加満足度については、保護者の方を対象としたアンケートであり、満足度については72.3%と目標値の85.0%と比較すると少し低い状況となっているが、不満と回答している方からも、活動内容に関する不満はほとんどなく、主に「参加人数を増やしてほしい」等の肯定的な意見をいただいている状況である。

（委員）

実際に働いている立場からすると、職場で一緒に働く方に外国人の方が非常に増えている実感がある。多文化共生の観点は、今後、大事なファクターと感じている。

（委員長）

愛知県内に限らず、外国籍の方は増えてきている状況であり、今後、外国籍の方

とどのように一緒に暮らしていくかというのは重要なポイントとなると思われる。

また、入管制度の改正が進められており、今後、国の動向を注視し、基礎自治体である市町村として対応を進めていただきたい。

(委員)

主な事業で挙げられている NO. 16「教職員の働き方改革（ラーケーション・部活動の地域展開等推進事業）」について、少子化でこどもの数及び学級数が減っている状況であり、団体で行う運動部や文化部については、1校だけでの継続が難しくなっている。国としても地域と連携して支えていくことを指針としており、戦略1の施策に掲げている「地域でこどもを見守り育てる環境の充実」という部分が重要となってくると思われる。

地域との連携については、指導者、遠征費用、大会参加の問題等の課題が山積みではあるが、こどもたちの希望や活動機会を失わせることのないように、地域の皆さんと知恵を出し合い協力していただけるとありがたいと考えている。

(委員長)

ただいまのご意見に関連して、事務局として、こどもたちの数が30年後にどのように推移するかという推計は行っているのか伺いたい。

それに伴い、地元調整も含め学校の統廃合等の考えも出てくるかと思われる。

(事務局)

人口減少は避けられない話であり、近隣の愛西市や弥富市等の市町村においては、学校の統廃合の話が進められている。本市においては、30年後の人口推計は行っていない状況ではあるが、8小学校区を基点として地域のコミュニティにもなっているため、こどもの数は減ってはいっているが、学校数については現状を維持するというのが教育委員会の見解であったと認識している。

(委員長)

部活動の地域展開等を進めようとしても、地域の側が受け皿として整っていれば良いが、多くの方が定年後も働いている時代でもあり、その中でどのように地域の支える器を作っていくかが重要となってくると考えている。

(委員)

職場の組合員の方でも部活動の指導等を行いたいという人は多くいる。そのような方に対して、会社としてや行政として、どのように後押しをしていくのかが重要であり、指導者資格や移動等の課題を共有し、解決していくことが大事と思われる。

今、こどもを持たれている親は、今が大事であり、早く問題解決に進んでほしいという声をよく伺っている。

(委員)

潜在的に、こどもたちを指導したい・支えたいというような方がいる中で、その方たちを集約して学校へつなげる等の取組を市で行っていただけると、ありがたいと感じている。

(委員)

今の津島市のこどもたちが大人になった時、ここで子育てをしようと考えてくれれば良いが、市外へ出て行ってしまうというのが、人口減少の一番の要因になってくるのでは思われる。

また、防災等の資格を持っている指導者の方については、70歳以降も働かれている方が多く、地域で何かしていただきたくても、そのような状況ではないというのが現状である。

(委員長)

質問等も尽きたようなので、引き続き、事務局から説明をお願いしたい。

事務局より説明（資料４・５）

（戦略２ まちの活力を高め、人の流れをつくる）

(委員長)

事務局の説明を受けて、意見・質問等があればお願いしたい。

(委員)

複合的な課題を１つにまとめて解決していく方法が良いのではと考えている。

例えば、正面玄関である津島駅の周辺で、こどもたちや親御さんが集まるような定期的な催しを開催し、そこに巡回バス等の公共交通を活用する等の取組を行うことで、津島駅周辺に新たな焦点が当てられ、若手の経営者も生まれてくるのではないかと思われる。

１つ１つの課題をどう解決するかと考えると、なかなか答えは見つからないが、複合的に考えることが１つのきっかけとなり、複数の課題が解決に向かっていくのではないかと考えている。

(委員長)

ただいまのご意見に関連して、津島駅周辺に賑わいの拠点ができ、イベントに参加したり、周辺のお店で消費したりすれば、地域内で経済循環ができ、ウォークアブルで住みやすいまちとなっていくと思われるが、現実として、津島市の子育て世代の方々は、週末・休日にどこに行かれているのか伺いたい。

(委員)

私自身、1番下のこどもが高校3年生となり、子育てということは終わりつつある状況ではあるが、今年度、つしまクロスがオープンし、先日、天王祭の時に利用させていただいた際には、全席が埋まり盛況となっていた。

これだけ人が集まり、認知された状況ではあるので、その周辺にさらに魅力的なものができていけば、人の流れができると思うので、今後に期待したい。

また、つしまクロスの2階のスタディスペースに、大学生の次男も勉強しにいており、反応も良い状況であるため、そういった若い人たちにも情報が拡まっていけば良いなと感じている。

(委員)

つしまクロスについては、駐車場が少ないという問題があるため、先程のご意見にもあったイベントの際の巡回バスの活用等により、その問題が解消されると良いなと感じた。

(委員長)

最近の暑さは危険ではあるが、スターバックスのある天王川公園についても、立派な遊び場もあり、子育て世代にはもってこいの場所であると感じている。

(委員)

KPIに「創業セミナー等参加者数(人)」があるが、いちい信用金庫においても、西尾張創業塾というものを開催しており、これから創業される方や創業して間もない方への支援をさせていただいている。

いちい信用金庫においても課題になっているが、創業はされるが、その後、持続せず、5年後、10年後に残っているのは2割ぐらいの印象となっているのが現状である。このことについては、いかに創業してから事業を持続していくことが難しいかを表しているのだと思われるが、創業セミナー等に参加された方に対して、何か定期的なフォローアップ等をしているか教えていただきたい。

また、私自身、毎日、津島駅で降り会社に通っているが、改札口を出て北側に向かって歩き、東口に出るが、そこの出入りが非常に狭く、すれ違いができない状態となっている。こどもの時に津島北高校に通っていた時と何も変わっていない状況であり、些細な事ではあるが、そこのアプローチが良くなれば人の流れもスムーズになるのではと感じている。

(事務局)

1点目の創業に関しては、令和8年度から津島市創業支援補助金を創設しているが、フォローアップというのは、なかなかできていないというのが現状であり、今後、関係機関と検討を進めていければと考えている。

2点目の津島駅の件に関しては、ご意見として承り、名古屋鉄道株式会社に要望を出していこうと思う。

(委員)

地域の活性化や発展を考えると、企業誘致や雇用の場の創出は重要であると考えるが、一方で、仕事観がないまま社会に出て早期退職される若者や心の疲れで退職される方が、最近、大変多くなってきていると実感している。

他の市町村であるとキャリア教育に力を入れているところもあるが、津島市としてはどうなのか教えていただきたい。

(事務局)

キャリア教育については、中学校で職場体験をさせていただいており、2日間、職業の現場を肌で感じてもらっている。国においても、小中高等学校を通してキャリア教育を推進していく方針のため、小中学校では、キャリアノート（キャリア・パスポート）を作り取り組んでいる状況である。また、働いている人の声を聴く機会が少ないという声もあり、講演を行いたいという企業と小中学校をマッチングして、職業についての講義を行っていただく等の取組も進めている。

キャリア教育については大きな課題であると認識しているため、教育委員会に、キャリア教育の充実について伝えていこうと思う。

(委員)

補足であるが、地域学校協働本部の取組として、藤浪中学校でキャリア支援教育ということで、津島市内の企業の方にお越しいただき、生徒に講義をしていただいている。このことを共有し、他の中学校についても広げていければと思っている。

生徒の反応も良く、将来に向けての視野が広がったという意見が出ている。

(委員)

新卒を採用し始めて9年となるが、最初の3年ぐらいは入社後にすぐ辞めてしまう職員が多い状況であった。そこで、社内に新卒10名程度の学校を作り、2年間、先生に指名した職員に教育を行ってもらおうという取組を進めたところ、職員の定着率が高まったという経験がある。そのように学ぶ姿勢を打ち出していくと、ただ働いているのではなく、学びながら働いているという意識が生まれ、心の準備も整っていくのではないかと感じている。

(委員長)

先程の創業からの持続性であったり、ただいまの働く職員の方のエンゲージメント向上であったりは、重要なポイントであると思われるが、それに対して、行政として何ができるのか検討を進めていく必要があると感じている。

(委員)

当社はメディアとして、どのように津島市の良さ等を情報発信していくかという観点から社内でアイデア出しを行った。

その中で、津島市に住む理由というところで、津島市に移住してきた若者、市内で起業した人、子育てを楽しんでいるご家庭、地域活動を支えるご高齢者、伝統を継承する職人さんなど、こういうものをテーマとして 30 分程度の番組を制作し、短編動画で YouTube 配信をしてはどうかと考えている。その際、市内の中だけで配信するのではなく、観光プロモーション的に全国のケーブルテレビ局に放送していただくなどし、全国的に津島市をいいまちだと知っていただくということができれば面白いかなと思っている。

仕事というところでは、100 年続く老舗であったり、地元製造業や農業、食品事業者、若手経営者、女性起業家であったりにスポットを当て、同様に番組の制作をし、情報発信をしていくことも当社ならではの事業として提案したい。

(委員長)

質問等も尽きたようなので、引き続き、事務局から説明をお願いしたい。

事務局より説明（資料 4・5）

（戦略 3 支えあい、安心して暮らせる地域をつくる）

(委員長)

事務局の説明を受けて、意見・質問等があればお願いしたい。

(委員)

雨水の関係については、全国各地で大雨による冠水被害が起こっている。津島市においても、私が住んでいる津島駅周辺については、50 年近く前から冠水は起こっており、下水道管を通していただき、少し良い状態にはなってきたはいるが、大雨が降るたびに冠水してしまっている。市の対応としては、善田川へ排水するというのを毎回言われているが、何年かかるのかと感じている。

市民の感覚としては、地震よりも水害の心配が大きいという声を多く聞いており、先程説明いただいた止水板や土のう等の浸水対策については、効果がどの程度か分からないが、多くの人に興味を持っていただけると感じている。

(事務局)

善田川の拡幅工事については、管理者である愛知県に対して、市長が地元県議会議員と一緒に、予算をつけていただくよう緊急要望を行っている状況である。

市としても、まずは雨水管理総合計画を作り、長期的な見通しを立てるとともに、限定的な効果となるかもしれないが止水板、土のう等の補助を行い、浸水対策の取組を少しでも進めていければと考えている。

(委員長)

市としては、まずは雨水管理総合計画を作るということで、計画を作る中で、どこに重点を置けばよいのかというのは見えてくるのではと感じている。また、計画を作ることで国の補助金もいただけ、ハード整備等に結びついていくのかと思われるため、当面はソフト事業が中心かもしれないが、長い目で見て取組を進めていただければと思う。

(委員長)

それでは、質問等も尽きたようなので、議題「(1) 第2期津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について」は終了し、次の議題「(2) 地方創生推進交付金事業の進捗、評価、検証について」に移らせていただく。

資料6「地方創生推進交付金事業評価・検証シート【令和7年度実施分】」について事務局から説明をお願いしたい。

議題 地方創生推進交付金事業の進捗、評価、検証について

事務局より説明（資料6）

(委員長)

事務局の説明を受けて、意見・質問等があればお願いしたい。

(委員)

2ページ目からの「若者・女性に選ばれる持続可能な地域公共交通事業」について、計画の流れを確認させていただきたい。3年間の実証実験ということで、令和7年度の実績が少なかったが、様子を見ながら、この実証実験を続けていくという認識で良いか。

(事務局)

説明の仕方が悪かったかもしれないが、通勤・通学対応実証実験については、令和7年度の1年目のみの事業であり、令和8年度以降は、この結果を踏まえて、走行している現在の巡回バスの見直しを進めていくという形となる。

今回、通勤・通学の時間帯の実績が少なかったため、その時間帯での運行は難しいかと考えている。

(委員)

ずっと同じ形で3年間の実証実験を進めていくのかという認識であったが、計画に対して課題が出てきて、それを解消し、改善しながら巡回バスの見直しを進めていくということであれば良いと感じた。

(委員長)

トライアンドエラーということで、何も実証実験をせず、うまくいきませんでしたということになるよりは、実証実験を行って、その結果を踏まえて改善を行っていくことの方が、余程よいのではと考えている。

実証実験の結果として、ニーズの声はあったが、実態はユーザーとして利用は少なかったということが明らかになったので、それを踏まえて、あえて通勤・通学の運行をする必要はないという判断を行っていることは合理的であると感じている。

津島駅～老松住宅線については、市内の津島高校に通うこどもたちを運ぶ路線となっていたのかと思われるが、本事業の概要としては、名古屋市のベッドタウンとして、津島駅までのアクセスを良くすることにより、いかに通勤・通学先である名古屋へのアクセスを向上させるかを課題として挙げており、その整合性はどのように考えているか伺いたい。

(事務局)

設定した路線については、2つの目的があり、まず1点目として、津島駅から津島高校までのルートは直通となっており、駅を利用している学生を津島高校まで送りたいというイメージであり、市外から津島高校に通っている学生を対象としたものとなっている。次に2点目として、津島高校を経由した後は、旧市街である西・南小学校区をグルッと回って、そこに住んでいらっしゃる方を対象とし、津島駅まで通勤として運ぶというものとなっている。

(委員長)

巡回バスについては、あったらいいなと思っても、なんだかんだ自転車であったり、ご家族の方の送迎であったりなどになっている状況なのかと思われる。そのあたりも含めて、今後、公共交通をどうしていくのかということを考えていく必要があるかもしれない。

(委員)

私自身、住んでいる場所の関係で、津島駅や青塚駅も遠く、また、巡回バス等も含め公共交通を利用していない状況である。

(委員)

親御さんと一緒に住んでいる組合員の方について、普段は自動車で買い物等に連れて行っていたが、海外に出向した際に、親御さんの移動手段がなくなってしまったという声を聞いたことがある。その際、たまたま巡回バスが家の近くに通っていたので利用できたが、巡回バスまでなくなった場合、どうしようもなくなっていたのではないかとということであった。公共交通の移動手段については、いろいろなニーズがあり、収益性も含めて検討を進めていく必要があると思われる。

(委員長)

津島市としては、デマンド型の津島おでかけタクシーとして、4分の3の補助で市民負担が4分の1で利用できる制度もあり、そちらも1つの選択肢になってくるかと思われる。

当然ながら企業の協力も選択肢としてあり得ると考えられ、スーパー等であれば、買い物を届けてもらえるサービスがあったり、最近だと、名古屋市内ではセレモニーホールにおいて、日中の葬儀等がない時間帯にバスを走らせ買い物に連れて行ってくれたりしている。そのような企業のサービスに対して、行政としてどう関わっていくのかということについても、今後、考えていく必要があるかもしれない。

(委員長)

本日予定した議題はすべて終了したので、事務局にお返しする。

(事務局)

いただいた様々なご意見については、これからのまちづくり等に反映していきたいと思う。

それでは、本日はこれにて閉会とする。

閉会